

平成22年3月期 第3四半期決算短信

平成22年2月12日

上場会社名 ダイコク電機株式会社

上場取引所 東 名

コード番号 6430 URL <http://www.daikoku.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 栢森 雅勝

問合せ先責任者 (役職名) 取締役総務セクタ長 (氏名) 山下 陽

TEL 0568-88-7111

四半期報告書提出予定日 平成22年2月15日

配当支払開始予定日 —

(百万円未満切捨て)

1. 平成22年3月期第3四半期の連結業績(平成21年4月1日～平成21年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期第3四半期	40,814	21.6	4,383	55.9	4,598	58.5	2,346	△3.7
21年3月期第3四半期	33,560	—	2,811	—	2,900	—	2,437	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年3月期第3四半期	158.73	—
21年3月期第3四半期	164.88	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年3月期第3四半期	52,735	27,374	51.8	1,848.72
21年3月期	55,546	26,060	46.8	1,759.92

(参考) 自己資本 22年3月期第3四半期 27,330百万円 21年3月期 26,018百万円

2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年3月期	—	10.00	—	60.00	70.00
22年3月期	—	10.00	—		
22年3月期 (予想)				50.00	60.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 有

3. 平成22年3月期の連結業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	50,600	△3.2	4,200	△12.5	4,400	△11.9	1,700	△51.8	114.99

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 有

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

(注)詳細は、4ページ「定性的情報・財務諸表等」4. その他 をご覧ください。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)

① 会計基準等の改正に伴う変更 無

② ①以外の変更 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	22年3月期第3四半期	14,783,900株	21年3月期	14,783,900株
---------------------	-------------	-------------	--------	-------------

② 期末自己株式数	22年3月期第3四半期	196株	21年3月期	196株
-----------	-------------	------	--------	------

③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間)	22年3月期第3四半期	14,783,704株	21年3月期第3四半期	14,783,709株
----------------------	-------------	-------------	-------------	-------------

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件等については、4ページ「定性的情報・財務諸表等」3. 連結業績予想に関する定性的情報をご覧ください。

【定性的情報・財務諸表等】

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、アジア向け輸出が増加し、生産は持ち直してきておりますが、雇用情勢は厳しく、物価は緩やかなデフレ状況にある等、依然として厳しい状況が続いております。

当社グループが携わるパチンコ業界におきましては、新規出店等の大きな設備投資は依然として低調でしたが、いわゆる1円パチンコ等の低貸玉営業は拡大を続けております。最近では、優良店の低貸玉営業への参入が一層進み、これに刺激され、既存店での小規模の設備投資の動きが目立っております。

このような市場環境のなか、情報システム事業におきましては、優良企業の参入で一層差別化が求められるようになった低貸玉営業の動きに対し、「楽pass」や「BIGMO」の活用提案を推進いたしました。制御システム事業におきましては、遊技機のソフト、ハードの企画提案に努めました。アミューズメントコンテンツ事業におきましては、コンシューマゲームでは、受託したゲームを中心に開発を行い、携帯電話ゲームでは、高価格コンテンツとソーシャルアプリを中心に開発を行いました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高408億14百万円（前年同期比21.6%増）、営業利益43億83百万円（同55.9%増）、経常利益45億98百万円（同58.5%増）、四半期純利益23億46百万円（同3.7%減）となりました。

事業の種類別セグメントの業績は次のとおりであります。

（情報システム事業）

当事業の第3四半期連結累計期間は、4月に開設したMIRIGATEネットワークを活用したパートナーズセンタの評価が高く好業績に繋がりました。パートナーズセンタは迅速かつ確かなメンテナンスに対応するためのメンテナンスデスクと、ホールコンピューティングシステム「CⅡ」を有効活用するための支援窓口となるCⅡデスクから成り、ホール支援サービスの強化に努めた結果、CⅡシステムの導入店舗が増加しました。また、ファンの利便性向上に役立つ、台毎計数システム「楽pass」や情報公開機器「BIGMO」及びコンテンツ表示を一層充実させた高機能呼出ランプ「IL-A3」の提案が受け入れられ、納入が順調に進みました。

この結果、当事業の売上高は212億10百万円（前年同期比23.1%増）、営業利益は40億87百万円（同49.4%増）となりました。

（制御システム事業）

当事業の第3四半期連結累計期間は、市場環境の厳しさが増し、多くの遊技機において販売台数が伸び悩むなか、遊技機のソフト、ハードの企画提案に努めたことにより販売は好調に推移し、製品販売は137億27百万円（前年同期比41.5%増）、商品販売は49億77百万円（同7.7%減）となりました。

この結果、当事業の売上高は187億6百万円（同23.9%増）、営業利益は19億49百万円（同14.1%増）となりました。

（アミューズメントコンテンツ事業）

当事業の第3四半期連結累計期間は、海外メーカーから受注したゲームソフトが、北米のゲームショーであるE3の大賞にノミネートされる等、メーカーからの評価が高まり、国内の大手ゲームメーカーからの受注も進みましたが、予定していた案件の見送りや受託契約の遅延が生じました。

この結果、当事業の売上高は9億22百万円（前年同期比26.3%減）、営業損失は1億78百万円（同9.7%増）となりました。

（注）事業の種類別セグメントの業績の金額には、セグメント間取引が含まれております。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ28億10百万円減少の527億35百万円となりました。

流動資産では、売上債権の資金化により現金及び預金が増加しましたが、前連結会計年度の第4四半期における売上計上が、当第3四半期より多かったこととともない受取手形及び売掛金が減少、当連結会計年度において売上の実現による在庫の減少により、前連結会計年度末に比べ25億62百万円減少の373億68百万円となりました。

固定資産では、主に大きな変動はなく前連結会計年度末に比べ2億47百万円減少の153億66百万円となりました。

負債では、当連結会計年度の第3四半期における仕入計上が前第4四半期より少なかったこととともない支払手形及び買掛金の減少と、借入金の返済があったことにより、前連結会計年度末に比べ41億25百万円減少の253億60百万円となりました。

純資産では主に利益剰余金の増加により前連結会計年度末に比べ13億14百万円増加の273億74百万円となりました。また、自己資本比率は前連結会計年度末に比べ5.0ポイント上昇の51.8%となりました。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

平成21年10月22日に公表いたしました通期の業績予想を下記の通り修正いたしました。

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	48,600	3,200	3,300	1,400	94.69円
今回修正予想(B)	50,600	4,200	4,400	1,700	114.99円
増減額(B-A)	2,000	1,000	1,100	300	—
増減率(%)	4.1	31.3	33.3	21.4	—
(ご参考)前期実績 (平成21年3月期)	52,282	4,799	4,991	3,523	238.33円

詳細につきましては、本日別途公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照下さい。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

定率法を採用している資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

該当事項はありません。

5. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	当第3四半期 連結会計期間末 (平成21年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	17,933,874	15,658,564
受取手形及び売掛金	12,553,038	16,771,079
商品及び製品	3,528,736	2,879,169
仕掛品	430,197	962,721
原材料及び貯蔵品	2,334,026	3,020,267
繰延税金資産	295,623	134,512
その他	342,760	564,651
貸倒引当金	△49,485	△59,329
流動資産合計	37,368,772	39,931,636
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	3,005,893	3,024,719
土地	2,504,956	2,506,956
その他（純額）	1,342,346	1,374,197
有形固定資産合計	6,853,196	6,905,873
無形固定資産		
ソフトウェア	1,256,742	1,271,543
その他	39,524	40,567
無形固定資産合計	1,296,267	1,312,110
投資その他の資産		
投資不動産（純額）	2,800,111	2,804,111
繰延税金資産	1,302,714	1,590,844
長期預金	1,400,000	1,400,000
その他	1,935,290	1,807,563
貸倒引当金	△221,224	△206,197
投資その他の資産合計	7,216,892	7,396,322
固定資産合計	15,366,356	15,614,305
繰延資産	34	136
資産合計	52,735,163	55,546,079

(単位：千円)

	当第3四半期 連結会計期間末 (平成21年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	14,606,844	18,949,027
短期借入金	4,758,320	5,084,992
1年内返済予定の長期借入金	400,000	400,000
未払法人税等	1,420,147	914,025
役員賞与引当金	200,739	167,116
その他	2,452,168	2,296,191
流動負債合計	23,838,219	27,811,353
固定負債		
長期借入金	1,000,000	1,200,000
退職給付引当金	54,677	32,163
役員退職慰労引当金	282,765	257,746
その他	185,046	184,708
固定負債合計	1,522,489	1,674,618
負債合計	25,360,708	29,485,972
純資産の部		
株主資本		
資本金	674,000	674,000
資本剰余金	680,008	680,008
利益剰余金	25,972,608	24,660,873
自己株式	△491	△491
株主資本合計	27,326,126	26,014,391
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	4,833	3,790
評価・換算差額等合計	4,833	3,790
少数株主持分	43,494	41,925
純資産合計	27,374,454	26,060,106
負債純資産合計	52,735,163	55,546,079

(2) 四半期連結損益計算書
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)
売上高	33,560,530	40,814,944
売上原価	22,433,826	27,944,113
売上総利益	11,126,703	12,870,831
延払販売未実現利益控除	—	—
延払販売未実現利益戻入	27,563	11,365
差引売上総利益	11,154,267	12,882,196
販売費及び一般管理費	8,342,446	8,498,332
営業利益	2,811,820	4,383,864
営業外収益		
受取利息	16,067	17,592
受取配当金	7,089	5,697
受取ロイヤリティー	70,528	56,571
不動産賃貸料	80,762	79,750
その他	53,477	154,901
営業外収益合計	227,925	314,513
営業外費用		
支払利息	71,947	47,465
為替差損	37,546	—
その他	29,470	51,951
営業外費用合計	138,964	99,416
経常利益	2,900,780	4,598,961
特別利益		
固定資産売却益	1,453	210
投資有価証券売却益	6,000	—
貸倒引当金戻入額	—	14,327
前期損益修正益	16,183	—
特別利益合計	23,636	14,537
特別損失		
固定資産売却損	11,745	9,830
固定資産除却損	30,108	85,005
投資有価証券評価損	13,201	—
貸倒引当金繰入額	1,300	19,150
会員権評価損	18,768	—
和解金	34,560	—
その他	755	2,502
特別損失合計	110,439	116,488
税金等調整前四半期純利益	2,813,978	4,497,010
法人税、住民税及び事業税	335,609	2,022,538
法人税等調整額	65,655	126,308
法人税等合計	401,265	2,148,847
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△24,804	1,568
四半期純利益	2,437,517	2,346,594

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) セグメント情報

【事業の種類別セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間（自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日）

	情報システム事業 (千円)	制御システム事業 (千円)	アミューズメント コンテンツ事業 (千円)	計 (千円)	消去又は全社 (千円)	連結 (千円)
売上高						
(1)外部顧客に対する 売上高	17,225,367	15,098,027	1,237,135	33,560,530	—	33,560,530
(2)セグメント間の内部 売上高又は振替高	180	—	15,000	15,180	(15,180)	—
計	17,225,547	15,098,027	1,252,135	33,575,710	(15,180)	33,560,530
営業利益又は 営業損失(△)	2,735,126	1,708,890	△162,347	4,281,669	(1,469,849)	2,811,820

(注) 1 事業の区分は、内部管理上採用している区分によっております。

2 各区分の主な製品

(1) 情報システム事業

ホールコンピュータ、景品顧客管理システム、情報公開システム、工事収入等

(2) 制御システム事業

表示ユニット、制御ユニット、遊技機に使用される部品等

(3) アミューズメントコンテンツ事業

アミューズメント関連ソフト等

3 会計方針の変更

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法の変更

たな卸資産

通常の販売目的で保有するたな卸資産については、従来、主として総平均法による原価法によっておりましたが、第1四半期連結会計期間より「棚卸資産の評価に関する会計基準」（企業会計基準第9号 平成18年7月5日）が適用されたことに伴い、主として総平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）により算定しております。

これにより、当第3四半期連結累計期間の営業利益が、情報システム事業で20,541千円、制御システム事業で22,496千円それぞれ減少しております。

(2) 受注製作のソフトウェアの売上高及び売上原価の計上基準の変更

受注製作のソフトウェアに係る収益の計上基準については、従来、検収基準を適用しておりましたが、「工事契約に関する会計基準」（企業会計基準第15号 平成19年12月27日）及び「工事契約に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第18号 平成19年12月27日）が平成21年4月1日より前に開始する連結会計年度から適用できることになったことに伴い、第1四半期連結会計期間からこれらの会計基準等を適用し、当第3四半期連結会計期間末までの進捗部分について成果の確実性が認められる受注契約については工事進行基準（工事進捗率の見積もりは原価比例法）を、その他の受注契約については検収基準を適用しております。

これにより、アミューズメントコンテンツ事業で、当第3四半期連結累計期間の営業利益が92,168千円増加しております。

当第3四半期連結累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日）

	情報システム事業 (千円)	制御システム事業 (千円)	アミューズメント コンテンツ事業 (千円)	計 (千円)	消去又は全社 (千円)	連結 (千円)
売上高						
(1)外部顧客に対する 売上高	21,195,034	18,704,273	915,636	40,814,944	—	40,814,944
(2)セグメント間の内部 売上高又は振替高	15,510	2,283	6,661	24,455	(24,455)	—
計	21,210,544	18,706,556	922,298	40,839,399	(24,455)	40,814,944
営業利益又は 営業損失(△)	4,087,484	1,949,416	△178,114	5,858,786	(1,474,921)	4,383,864

(注) 1 事業の区分は、内部管理上採用している区分によっております。

2 各区分の主な製品

(1) 情報システム事業

ホールコンピュータ、景品顧客管理システム、情報公開システム、工事収入等

(2) 制御システム事業

表示ユニット、制御ユニット、遊技機に使用される部品等

(3) アミューズメントコンテンツ事業

アミューズメント関連ソフト等

【所在地別セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間（自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日）

在外連結子会社及び在外支店がないため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

当第3四半期連結累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日）

在外連結子会社及び在外支店がないため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

【海外売上高】

前第3四半期連結累計期間（自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日）

海外売上高が連結売上高の10%未満のため、海外売上高の記載を省略しております。

当第3四半期連結累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日）

海外売上高が連結売上高の10%未満のため、海外売上高の記載を省略しております。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。